

FOMA 900iL 接続でPBX統合に独自のアプローチを展開

net.comは、FOMA/無線LAN連携に必要な機能を1ボックスに集約。多機能型のVoIPゲートウェイ装置「SHOUTip」によって、既存のPBXやIP-PBX、H.323準拠のテレフォニーサーバー等と、FOMAなどのSIP端末の統合を実現。200万円台で容易に導入でき、同時通話240台まで拡張できる。

多数の企業ユーザーが注目する「FOMA 900iLソリューション」だが、現状では特定メーカーの製品や、SIが推奨するマルチベンダー型システムとして提供されている。このため、一般のユーザーは手軽に試験導入できない。

また、ほとんどのソリューションは、電

話システムのフルIP化を前提としている。PBXやビジネスホンに簡単にIPへ移行できないユーザーは、試験導入以前の検討段階で諦めざるをえない。さらに最低導入価格は、設計費や工事費、端末を除いても300～400万円かかる。

米国の中堅通信機器メーカーnet.com Inc.ではこうした現状を踏まえ、FOMA/無線LAN連携に必要なすべての機能をひとつに統合した「1ボックス・ソリューション」を構築。日本法人のnet.com Japanを通じて本格展開を開始した。

最大の特徴はベース・プラットフォームにSIPサーバーやIP-PBXではなく、「SHOUTip」という多機能型のVoIPゲートウェイを採用している点だ。



SHOUTipシリーズ(上から<SHOUTlink><SHOUT2500><SHOUT900>)

この装置はVoIPゲートウェイでありながら、FOMAなどのSIP端末を登録するSIPレジストラー機能を内蔵。B2BUAと呼ぶ独自アーキテクチャによって、各種プロトコル間の差異を吸収する。また、専用スクリプト言語のSHOUT Scriptにより、呼制御にかかわる各種サービス機能を提供する。

このユニークなプラットフォームを利用することで、簡便かつ廉価で拡張性の高いソリューションを実現。導入価格は200万円台で、最大240の同時通話が可能だ。特に、既存のPBXとFOMA 900iLの統合を1ボックスで実現した点は注目される(図1)。さらに、H.323ベースの既存IP-PBX、例えばCCM(Cisco Call Manager)とFOMA 900iLの統合も、プロトコル変換機能で可能としている(図2)。

IP-PBX機能は持たないため、FOMA 900iLの拡張機能は使えないが、標準SIPでサポートされている内線通話・保留・転送といった電話の基本機能はすべて利用できる。このため、PBXやCCMとFOMA 900iLの統合に価値を感じるユーザーには最適なソリューションと言えるだろう。

図1 FOMA/PBX統合モデル

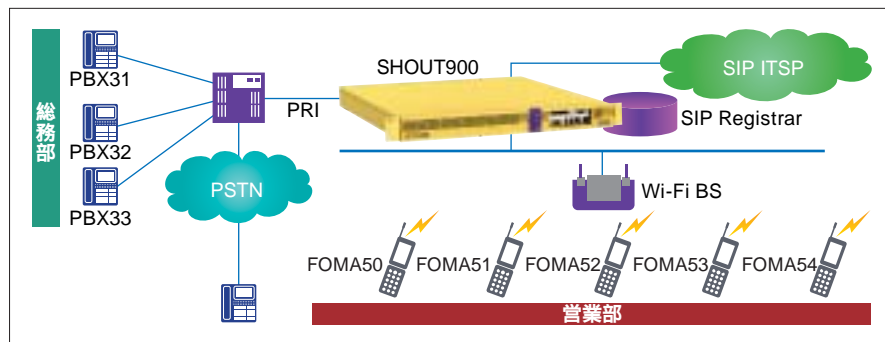
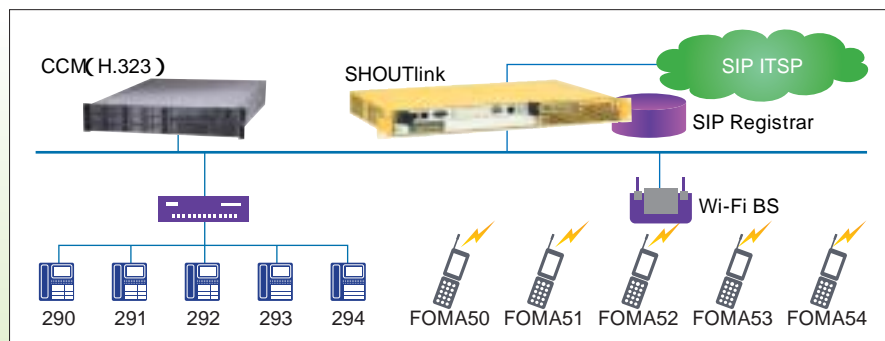


図2 CCM(H.323)システム接続モデル



お問い合わせ先

net.com Japan Inc.

TEL: 03-5439-5295

FAX: 03-5476-1865

E-mail: seiji_hashimoto@net.com

http://www.mmrsp.com/shout/